

(4) インド印刷業の現状と将来性

田中 崇

インドには15万の印刷会社があり、100万人以上の雇用を生み出している。

この数年インドは8%ほどの経済発展をしていて、BRICsといわれる将来の世界経済の中心的経済大国を目ざし、英語力、IT、低労働コストによって、先進国やアラブ圏を含む世界の情報処理センターになることめざしている。

インドの印刷業も10%近い生産拡大をしている。その理由は国民全体の英語力と、欧米で国際的な技術とビジネスを学んできた富裕層の子弟による国際的ビジネス力と、高学歴の多くの優秀な人材が得やすいなどの社会基盤の有利さによるものである。

インドの印刷業はそのほとんどが零細印刷会社であるが、一流印刷会社は世界水準の設備、技術、材料で、欧米に営業所を持ち、多くの印刷関連の受注をしている。もちろんISO9000対応、CIP-3、CTP対応も進んでいて世界水準の品質である。GATF、PIRAに加盟しているところも多く、印刷技術の国際水準化も進んでいる

国内の印刷需要は、経済の拡大に伴って商業印刷物を中心に増大している。17の言語を公認している出版関係の印刷でも、デリーブックフェアが東京の数倍の規模であるほどに発展している。インドは英語の出版では世界3位の出版大国であり、年間120億円の印刷物輸出もしている。

製造関係でも、欧米で新しく開発される最新画像処理ソフトをすぐに採用して、DDCPやリモートプルーフ、などのカラー校正のスピード化、CIP-3対応を進める一方で、学校教育のためのeラーニングソフト作成サービスから工程管理、生産管理、外国の事務所とのテレビ会議XMLや数学用種別ソフトなどを使っての編集や、自社開発ソフトによる欧米各国語への言語変換などのデータ処理から、カラー写真デザインを含む編集レイアウトサービスをインターネットを使って低コストで提供している。もちろん、漢字圏の国とアルファベット圏では、データ量にも大きな差があり、印刷物のデータ電送に大きな差があることも競争力である。

出版物の欧米からの受注の中には、大頁数、大部数の辞書、聖書などを、低い印刷製本コストに加えて、低コストによる梱包、輸送コスト業務も含めての受注による競争力も持っている。

インドの印刷業界団体でも、外貨獲得のための政府のバックアップもあって、印刷機材展、印刷品質コンテストなど、南米各国の印刷団体と同様な業界イメージアップの活動もしている。インドの先進的印刷会社は、印刷品質の国際水準化、より高いITを利用した印刷物画像処理のスピード化、高付加価値化の推進によって情報処理先進国の道を歩み始めている。

以上